

「従来排泄ケアとヒューマニー排泄ケアの環境影響比較」

評価実施者： ユニ・チャーム株式会社 CSR部環境推進室 小椋(こすぎ) 信明

●評価の目的と製品の特徴

- ・ ヒューマニーの環境性能把握
- ・ 環境影響改善に重要なプロセス、環境影響項目の抽出



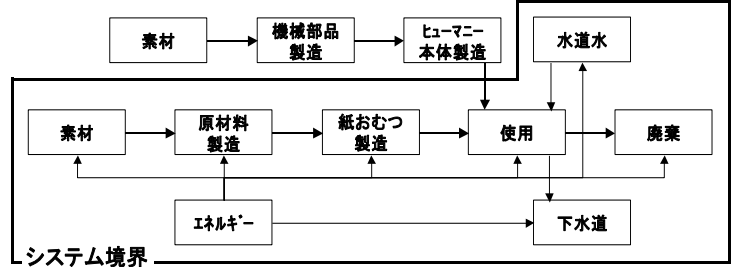
- ・ ヒューマニーロボ本体：質量2kg・消費電力；吸引時約10w、待機時約1W・
- ・ タンク容量；1リットル(1日1回トイレへ流す)
- ・ 大人用紙おむつテープ止めタイプMサイズ：製品質量 約110g(1日1枚使用)
- ・ ヒューマニーパッド：製品質量 約40g(1日1枚使用)
- ・ パッドのセンサーで尿を感知し吸引

●機能単位とシステム境界

機能単位： 1日あたりの排泄ケア

システム境界： 製造、使用、廃棄まで。

ただしヒューマニー本体製造、及び輸送は除く



●調査方法

<インベントリ分析>

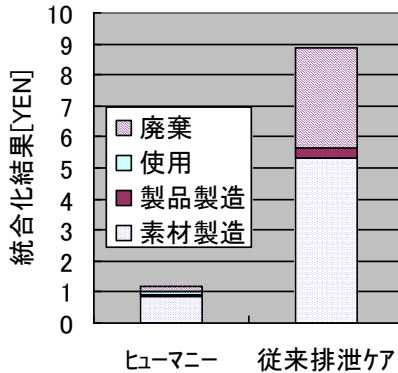
- ・ フォアグラウンドデータ： 自社調査
- ・ バックグラウンドデータ： LCA日本フォーラム, Jemai-LCA

<インパクト評価>

- ・ LIME2

●評価結果

【統合化結果(物質別)】

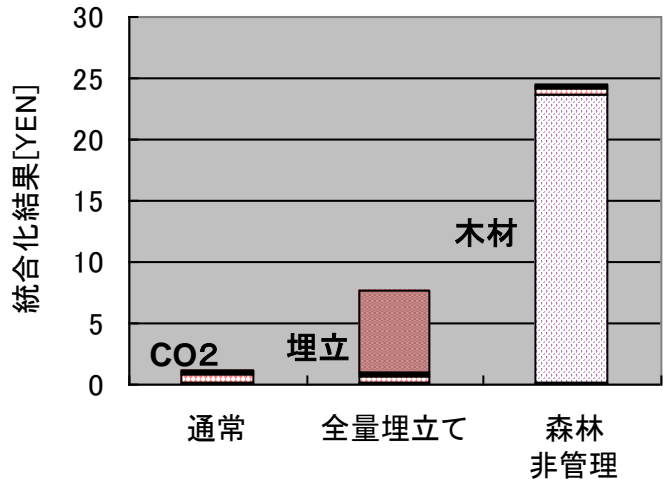


- ・ 従来に比べ大幅に環境負荷量は削減した。
- ・ 工程別では、素材製造、廃棄処分が多かった

【統合化結果(物質別)】

廃棄処分全量埋立シナリオと

パルプ原材料の森林管理を行わなかった場合との比較



- ・ 通常最も影響が大きかったCO2を減らすため、廃棄処分を埋立処理で行うと増加した。
- ・ 森林管理されていないパルプを使用すると大幅に増加した。

資源使用量を削減し、環境負荷量を低減、処分方法を埋立てにするとCO2低減できるが、全体としては増加傾向、パルプ由来の森林管理は環境影響としては最重要課題であった